

第2章

まちづくりの総合的課題 と目指すべき方向性

1. 新しい栃木市の総合的・
一体的なまちづくり
2. 地域の個性を活かした
魅力あるまちづくり
3. 都市づくりの新たな価値観に
基づく着実なまちづくり
4. 共に考え行動する協働・
連携のまちづくり

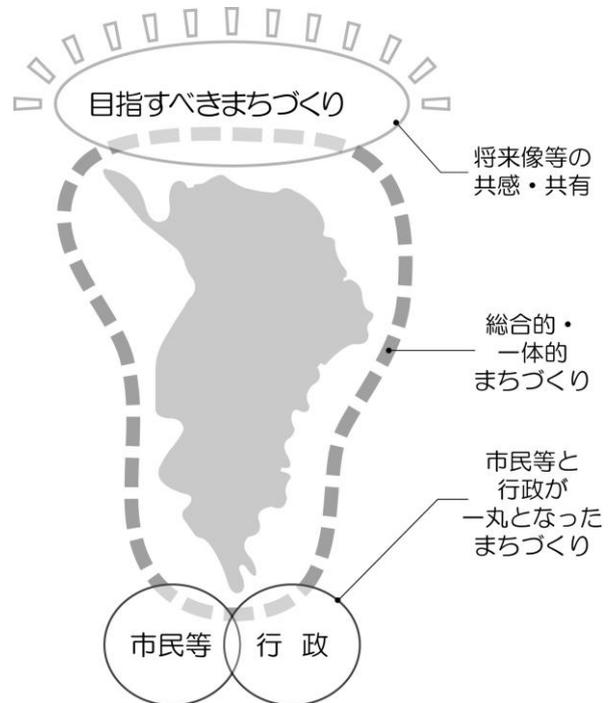
1. 新しい栃木市の総合的・一体的なまちづくり

1市5町が合併し誕生した新しい栃木市においては、これまで各市町が進めてきたまちづくりを踏まえながら、市民、行政が一丸となって、新たなまちづくりを推進していく必要があります。

旧市町の抱えるまちづくりの課題について、個別具体の解決策を講じていくことはもちろん重要ですが、よりよい新しい栃木市の未来を見据えた将来都市像を明確にし、全市民が広く共感・共有していくことが求められます。

また行政においても、旧市町の枠を超えた大局的な視野に立って、同じ目標に向かってまちづくりに取り組むことが求められます。

このため、合併を契機とした全市的な発展の方向性を踏まえ、これまで旧市町が取り組んできたまちづくりを活かしながら、新しい栃木市にふさわしい総合的・一体的なまちづくりを目指します。

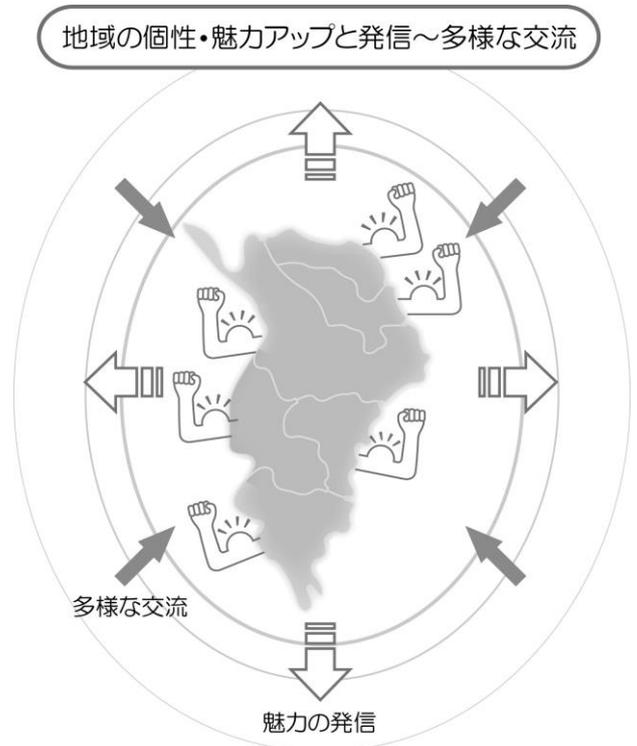


2. 地域の個性を活かした魅力あるまちづくり

本市は、歴史的町並みを有し市の中心的役割を担う「栃木地域」、豊かな田園と都市が調和する「大平地域」、首都圏エリアの玄関口であり活動的リラクゼーションスポットを有する「藤岡地域」、豊かな自然環境と広域交流拠点を有する「都賀地域」、歴史・文化資源と交流環境を有する「西方地域」、そして、自然と観光資源が調和する「岩舟地域」の6地域がそれぞれまちづくりにおける役割を担っています。

各地域がこれまで育んできた資源や、新たな発展のために活用を図る資源等を埋没させることなく、各地域の個性が活かされた魅力あるまちづくりを目指します。

また、これまで各地域が築いてきた周辺市町との交流・連携を大切にし、本市の多様な交流に活かしながら、広域的な連携と交流活発化につながるようなまちづくりを目指すことが重要です。

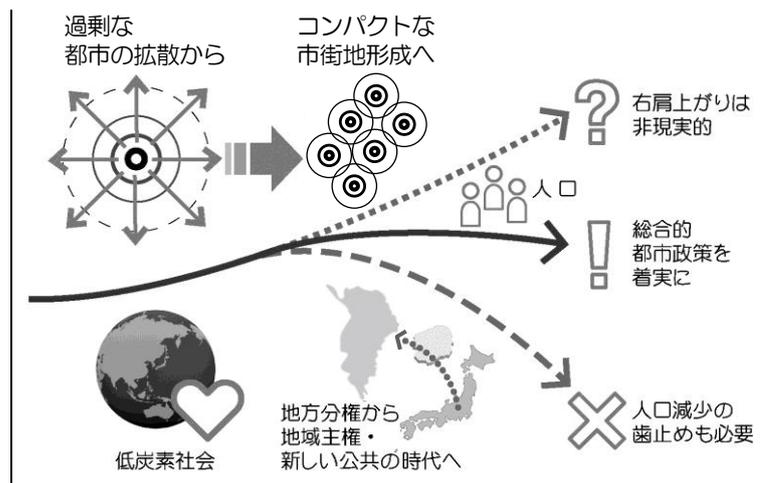


3. 都市づくりの新たな価値観に基づく着実なまちづくり

都市計画は、これまで人口規模の拡大とそれに対応した都市づくりが主流でした。しかし、本市を含め全国的な人口減少傾向が進むなか、こうした発想を転換し、地域課題や市民ニーズ等に柔軟に対応した都市づくりが求められます。

その転換とは、多様な政策を包含した総合的都市政策の推進、コンパクトな市街地と低炭素社会の形成、既存施設を活用したまちづくりへの転換、高齢社会に対応した安全・安心に暮らせるまちづくりの推進、地域主権の推進等が挙げられます。

本計画策定に当たっては、旧市町において取り組んできた都市計画の経緯やまちづくりの方向性を踏まえながら、このような都市づくりの新たな価値観に基づき、市民生活の長期的な安全・安心、快適、利便性を確保し、実効性のある着実なまちづくりを目指します。



4. 共に考え行動する協働・連携のまちづくり

まちづくりの主役である市民が「自分たちのまちは、自分たちが創る」といった意識のもと、市民・企業・団体・行政が相互にパートナーシップを確立し、協働のまちを目指すことが大切です。本計画においても、意向調査に基づく市民ニーズを踏まえた将来都市像や施策・事業を設定し、まちづくりの目標等の共有を図ります。

合併により拡大した市域の一体的なまちづくりにおいては、交通・産業等のネットワークはもちろん、人や情報のネットワーク等、市域や周辺地域を含めた連携が求められます。

このように、市民・企業・団体・行政が、まちづくりの目標を共有しながら、それぞれの特性や役割に基づき、共に考え行動する協働・連携のまちづくりを目指します。

